

2月議会本会議(3月19日) 請願討論 田口一登議員

## 弥富相生山線の 早期開通を 求める請願

# 住民の間に亀裂を生む住民投票はやめ、 意向調査をもとに市長が決めよ

3月19日の本会議で「市道弥富相生山線の早期開通を求める請願」について採決が行われ、田口議員が採択に反対の立場で討論を行ないました。

## 住民の気持ちは固まっていない

私は、市道弥富相生山線の早期開通を求める請願の採択に反対する立場から討論を行ないます。

反対する理由は、第1項で弥富相生山線建設工事の来年度からの再開を求めています。地元住民の間には賛否両論、さまざまな意見があることから、建設の是非を判断する上では住民の意向調査が不可欠であり、意向調査を実施しないままでの工事再開には賛成できないからであります。

## 賛否を問うのは対立を招く

第3項では、工事の是非に関する住民投票やアンケート投票は実施しないことを求めています。私も、単なる賛否を問う住民投票やアンケート投票は、住民の間に亀裂や対立が生じることになるので、行うべきではないと考えます。

## 意向を聞いて詩緒が判断すべき

私は昨年11月定例会で、住民の意向調査の方法を提案しました。工事を再開する場合、中止する場合の

それぞれのマイナス面を解決する方策も示して住民の意向を把握するアンケート調査です。

工事を再開する場合には、開通後のヒメポタルへの影響を低減するための踏み込んだ対策や、開通後に交通量の増加が予想される地域における交通安全対策などを明示する。中止する場合には、周辺地区への車の入り込みを抑制するための対策や、シェルターなどの建造物の撤去、あるいは転用についての考え方を明示する。こうして課題と対応策を示しながら、住民の意見を聞いたらどうでしょう。

これは一つの方法ですが、大事なことは、住民に判断材料を示して意向調査を行うことです。そのうえで市長の責任で判断されることを求めて、討論を終わります。

## 自公民新の多数で採択に

採決の結果、減税も反対しましたが、自公民新などの多数で採択になりました。しかし2014年度予算審議のなかでは自公民新が「亀裂をうまないような方法で調査し、市長が判断を」という「付帯決議」を付けざるを得ませんでした。



2月議会閉会 (3月19日)

## 口利き 防止条例

# 自民・民主に減税までもが 「継続審査」に



3月19日の本会議で「名古屋市職員の公正な職務の執行の確保に関する条例(口利き防止条例)」が「継続審査」となりました。自民党市議の口利き疑惑(囑託職員不正採用問題)を受け、再発防止がねらいです。

## 共産と公明が採決を主張

自民や民主が「継続審査」を主張し、日本共産党と公明党は直ちに採決すべきだと主張しました。提案者

の市長与党=減税日本ナゴヤは、賛成するのが当然だと思われましたが、最終的に「継続」に同調してしまいました。

## 特別秘書は自公民減で可決

一方、自公民が一貫して反対していた市長の特別秘書設置(リニアのまちづくりに必要と主張。日本共産党は反対)には、自公民が賛成、可決されました。